



人文棟中庭の東屋にて



第27号
発行・鴻文会

山口大学 文理学部文学科

人文学部 同窓会

山口大学人文学部内

電話 (083) 933 - 5200

(連絡事務所)

山口市平井 773 - 2

沖田ビル 202

電話・FAX (083) 928 - 4527

郵便振替口座 01500 - 4 - 15902

http://

homepage3.nifty.com/koubun/

メール:koubunkai@nifty.com

歩みを止めて

大野光生

さかんに落葉する姿を見て、「木の葉ふりやまずいそくないそくなよ」と呟いたのは加藤楸邨だった。「凜」の字をあてるにふさわしい俳人加藤の眩きには、先を急ぐ人たちを、静かに諭す姿勢が感じられる。

急がねばならない事情があるのはわかる。ヒマラヤの氷河が融解しはじめている。北極の氷も少しずつ減少しつつあると聞く。南の島々が海に沈もうとしている。急がねば、地球が危うい。自然を破壊する度合いを文明の進む高さに比例させようとする発想の原点がアングロアメリカイズムにあったのだろうか。文明開化の風潮から西洋文明に追いつけ追い越せのかけ声とともに、二つの国是が我が国是となつて謳われた。すなわち富国強兵、殖産興業だ。最初の四文字は一九四五年、八月六日と同じ八月九日の、二度にわたるアメリカ空軍による原爆投下によって、粉っぽみ塵と化してしまった。だからあれはしかたがなかったと呟いた大臣が被爆地広島、長崎の人たちの逆鱗にふれて、当然のごとく職を辞した。大臣の頭の中には、次の四文字が顕在だった。まずは経済力優先だと、我が国は急ぎに急いだ。市場原理主義

の発芽が高度成長の陰に見られ、いつの間にか、資金を転がすことによつて、膨大な利益を得ようとし、それが可能だという一種の寝技を弄する若者達が瞬時現れて消えたのは昨日のことだった。ライブドア、村上ファンド事件である。

過ぎ去つてすでに半世紀にもなる昭和四十八年、日本人のど肝を抜いたのがいわゆる第一次オイルショックだった。高度成長の夢はその瞬間、もろくも挫折してしまつたのだつた。

楸邨は散りしきる落葉を見詰めながら、日本の挫折を冒頭の句のように詠んだのであろうか。高校の国語教師として教壇に立っていた当時の私だったが、急いでトイレットペーパーを買いに行つた記憶がある。息切れするほど急いでいた。かつて、新聞紙で尻を拭つていたひとりの日本人として、水に溶けやすく、お尻にやさしいソフトな紙が使えなくなる日がやっきたのかと、嘆き、そしてあせりながら走つたものだった。その頃、私にはまだ幼い二人の息子がいた。牛肉を食べさせてやれないがために、古い牛の皮のベルトが囮られたものだった。それが、なんと、地下足袋のようなテキが食わし

てられるようになってから間もなくの大事事件なのだ。「贅沢は敵だ」、から「贅沢はステキだ」に替わろうとする矢先の出来事だった。OPECなどという略語とヤマニ石油相などという個人名が妖怪のように新聞紙上に現れたり消えたりしていた。やがて低成長が始まる。教育公務員である私たちの給料の千分の一年金資金積み立て用として差し引かれるという事実に対して、組合は当局に対して、それが不当なことだと激しく詰め寄る交渉がなされた時代でもあった。

私は教室では、「つれづれなるままに、ひぐらしすずりにむかいて……」などと、古典の授業にいそしんでいたものだった。そして間もなく惹起した三島由紀夫割腹自殺事件を忘れるわけにはゆかない。

きょうのニュースだが、東京のあるラグビーの名門大学生の大麻を吸引したという事件が報じられた。入学して間もなく朝鮮戦争の終結したという時期に大学生であった頃を振り返ることのできる私にとって、未来が未知なるが故にかくあ

るべしと叫ぶ内発性があったことに比して、闇と不安に包まれているのであろうか、刹那主義に走る、いや、走らざるを得ない若者の一面を見せつけられたようで、なんだか、少し急ぎたくなつたような気持ちである。

私も鴻文会会長となって六年目を過ぎようとしている。今や、最も熾烈な戦いとして、八百兆円の借金を抱えた不良債権団体である我が国を、いかに立て直すかを国是とせねばならない現実に直面していることだ。独立法人山口大学はその国にあるのである。

あと、八年すると、開学二百年の記念日を迎えるのは、なんと、全大学の中でも、東京大学と我が山口大学なのである。私はその記念式典のおこなわれるであろうその日、生きていければ、八十二歳となっているはずである。

その日まで、怪物ではなく願わくば人間で在り続けたい。 おわり

(昭和三十一年、中国哲学科卒。現鴻文会会長)

奥津先生の最終講義が以下の通り行われました。

日時 平成二十年一月二十五日(金) 午後四時十分～午後五時四十分

場所 山口大学学生会館2階

講義名 「実践的現代芸術・文化論」

御退任教員の挨拶

大学卒業を迎えて

奥津 聖

(藝術論美術史講座教授)

昭和53年に文理学部が改組され、人文学部が誕生。私は、翌年、新設されたばかりの美学美術史講座の講師として赴任しました。教官は石原達二教授と私の二名、所属学生は初年度のため10名だけの小講座でした。それから28年、その間講座の同僚は、石原先生から外山紀久子先生、藤川哲先生と、どんどん若返ってゆきました。私は居心地の良さに年月の経るのを忘れていたようです。

高校までを母方の愛知県岡崎で過ごし、大学と大学院は、放浪の時期を挟んで東京に住まい、赴任するまで長きにわたって学生であり続けていました。多分大学が好きだったのでしよう。私は今回初めて大学を去ることになり、これから厳しい世間の風に晒されることになりました。

山口は、今ではデラシネの旗を降ろした私の第二の故郷となりましたが、明治維新発祥の地であり、もともと敵地ともいふべき地です。愛知県の「愛知」は、フィロ・ソフィアの字義通りの訳語です。西周なら、哲学県と名付けても不思議ではないところです。私は何の根拠もありませんが、廃藩置県は、尾張と三河

という全く異なる伝統と文化を有する、維新政府に取って最も危険な二藩を無理矢理統合してその力をそぐ為に行われたのではないかと邪推しておりました。赴任当時は、よく飲み屋で、長州の悪口を声高に叫んで嫌われておりました。現在では歴史的な和解が成立しましたが、当時はまだ会津の人々は山口を許していませんでした。その理由が分からないというのです。私は、官軍も第二次大戦中の日本軍も武士の戦をしなかったからだと答えて響きを買っていたのです。父は、神奈川県葉山の小学校在任中に30歳で亡くなりました。教え子たちに葉山に招かれた折、出征に際して父が「絶対に死ぬな、生きて帰れ」と諭した、「そんな先生は一人もいなかった」と思い出を語ってくれました。父は夭折したけれども教師として何かを残したのだと感涙しましたが、私はただ馬齢を重ねすぎたようです。

「象牙の塔の粉碎」を叫んだ学生時代の友人たちは、官僚となって内部から大学をラディカルに解体することに成功しつつあります。大学による特権的な「知の独占」もインターネットによって不可能となりつつある時代です。大学の旧き良き時代を満喫して去る私はその後ろめたさに忸怩たる思いです。



平成十九年度

山口大学人文学部生涯学習事業

山口大学人文学部は、地域社会との交流を深め、幅広い年齢層の豊かな教養の保持と知的向上のために、十九年度、次のような事業を行ってまいりました。

(一) 第二十回人文学部公開講演

毎年一回、山口県下のひとつの地域において、本学部の二名の教員がひとつのメインテーマのもとに、三時間程度の講演会を行っています。今年度は、下関市教育委員会との共催で、長府にお邪魔しました。

日時 平成十九年十月十三日(土) 午後一時三十分～四時三十分

会場 長府東公民館 講堂

メインテーマ 「やまぐち学」の構築に向けて

講師・演題 田中 誠二教授 『長藩の成立 ―本・支藩関係を中心に』

中村 友博教授 『綾羅木遺跡の壺 ―豪華な壺が出現する背景』

*なお、来年度も、メインテーマを変更して、県内のいずれかへ出張する予定をたてております。お近くに参りました節は、どうぞお誘い合わせの上、ご来場くださいませ。

(二) やまぐちサタデー・カレッジ(公開講座)

七年目を迎えました、大学キャンパス内における公開講座「やまぐちサタデー・カレッジ」(土曜大学)は、前期二コース、後期二コースの、合計四コースを開講し、それぞれ四回・六回・八回の講義を行い、五十名余りの方々に聴講頂きました。週末の午後のひととき、社会人、大学生、高校生が共に楽しく学んでおります。

会場 山口大学人文学部教室

前期(六～七月)

異文化交流コース ジュマリ・アラム准教授

『異文化理解の宗教学的アプローチ』

―聖なる表現の仕組み―

外国語学習コース(英語) 岩部浩三教授

『英語に関する素朴な疑問について考える』

後期(十月～十二月)

日本文化コース 柏木寧子准教授

『仏をめざす人々の物語を読む』

外国語学習コース(フランス語)

井上三郎教授

『星の王子さま』をフランス語で読む』

*なお、来年度も前・後期に開講の予定です。詳細は、三月頃発行されます受講案内をご覧ください。(山口大学エクステンションセンター、電話08339335059)

(三) 出前講義

人文学部は、幅広い年齢層の知的探求心に応じて「必要なとき、いつでも学べる」場となることを目指して、本学部教員が気軽に大学の外に出向いて講義する「出前講義」を行っています。今年度も、山口県下その他の高校に出掛け、多くの講義を行ってまいりました。

来年度も、今年度同様、地域社会の要望に応じてまいります。教員の講義できる領域などを掲載した資料がありますので、お気軽にお申し出ください。(山口大学エクステンションセンター、電話08339335059)

(四) 周南オーブンカレッジ

周南市教育委員会(生涯学習センター)主催の生涯学習講座です。今年度も、主催者の依頼を受け、本学部の教員を講師として派遣しました。

林伸一教授 『人間関係づくりとコミュニケーション』

(七月、四回 周南市徳山保健センター講義室)
第一回「自分を開く、自分を知る」第二回「気持ちを伝え合う」第三回「人間関係をつくる」第四回「ほめる、ほめられる」

*なお、周南オーブンカレッジは市の方針で統合再編されることになり、山口大学を含む各大学からの恒常的な出講は行われなくなりました。

平成18年度事業報告

1. 第33回役員会 (6月10日)
2. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会 (7月21日)
3. 山口大学同窓会連合会理事会 (6月29日)
4. 会報「鴻文」第26号発行 (12月)
5. その他

平成18年度決算

収入総額 3,140,599円 支出総額 2,622,618円 残高(次年度繰越金) 517,981円

<収入の部>

| 科 目 | 当初予算額 | 決算額 | 比較増減 | 摘 要 |
|------|-----------|-----------|----------|-------------------------------|
| 繰越金 | 944,117 | 944,117 | 0 | |
| 会費収入 | 2,070,000 | 1,800,000 | △270,000 | 10,000円×180人(18年度入学者、過年度分を含む) |
| 繰入金 | 0 | 0 | 0 | |
| 賛助金 | 200,000 | 382,430 | 182,430 | 賛助金(H.18年4/1~H.19年3/31) |
| 雑収入 | 0 | 14,052 | 14,052 | 預金利子、預金解約 |
| 合 計 | 3,214,117 | 3,140,599 | △73,518 | |

<支出の部>

| 科 目 | 当初予算額 | 決算額 | 比較増減 | 摘 要 |
|-----------|-----------|-----------|----------|--|
| 会議費 | 100,000 | 42,954 | △57,046 | 役員会、交通費、その他 |
| 印刷費 | 250,000 | 167,000 | △83,000 | 会報印刷5,000部、封筒印刷5,000枚 |
| 郵送費 | 450,000 | 409,745 | △40,255 | 会報郵送料、葉書購入、通信連絡費 |
| 事務所運営費 | 820,000 | 725,950 | △94,050 | 家賃330,000円 人件費355,950円 事務所経費40,000円(電話、電気、町内会費) |
| ホームページ維持費 | 140,000 | 15,272 | △124,728 | プロバイダー契約料、メールウイルスチェック料、謝礼その他 |
| 事務費 | 25,000 | 20,008 | △4,992 | 消耗品、その他 |
| 寄付金費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 日中学術交流奨励会 |
| 慶弔費 | 50,000 | 84,674 | 34,674 | 各同窓会への祝い金、その他香典料、弔電料 |
| 積立金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | |
| 総会費 | 0 | 0 | 0 | |
| 予備費 | 279,117 | 57,015 | △222,102 | 懇親会補助、パソコン修理、その他 |
| 合 計 | 3,214,117 | 2,622,618 | △591,499 | |

<特別会計>

| 科 目 | 17年度財産 | 18年度財産 | 比較増減 | 摘 要 |
|----------|-----------|-----------|-----------|----------------------|
| 中期国債ファンド | 1,411,777 | 1,411,777 | 0 | 一般会計より繰入 |
| 定額預金 | 3,980,000 | 3,980,000 | 0 | 一般会計(賛助金含む)より繰入 |
| 定額預金 | 0 | 1,000,000 | 1,000,000 | H18年度一般会計(賛助金含む)より繰入 |
| 合 計 | 5,391,777 | 6,391,777 | 1,000,000 | |

監査の結果過誤なく的確に経理されていることを確認します。

監 事 藤 井 英 樹
北 川 健

平成19年度事業計画

1. 第34回役員会 (6月9日)
2. 山口大学日中学術交流奨励会理事会及び総会 (6月21日)
3. 山口大学同窓会連合会理事会 (日時未定)
4. 会報「鴻文」第27号発行 (12月)
5. その他

平成19年度予算

<収入の部>

| 科 目 | 19年度予算額 | 18年度予算額 | 比較増減 | 摘 要 |
|------|-----------|-----------|----------|-------------------------|
| 繰越金 | 517,981 | 944,117 | △426,136 | |
| 会費収入 | 2,050,000 | 2,070,000 | △20,000 | 10,000円×205人(19年度入学者) |
| 繰入金 | 0 | 0 | 0 | |
| 賛助金 | 300,000 | 200,000 | 100,000 | 賛助金(H.19年4/1~H.20年3/31) |
| 雑収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 合 計 | 2,867,981 | 3,214,117 | △346,136 | |

<支出の部>

| 科 目 | 19年度予算額 | 18年度予算額 | 比較増減 | 摘 要 |
|-----------|-----------|-----------|----------|------------------------------|
| 会議費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 役員会、交通費、その他 |
| 印刷費 | 250,000 | 250,000 | 0 | 会報印刷5,500部、封筒印刷5,300枚 |
| 郵送料 | 450,000 | 450,000 | 0 | 会報郵送料、葉書購入、通信連絡費 |
| 事務所運営費 | 820,000 | 820,000 | 0 | 家賃、人件費、事務所経費(電話、電気、町内会費) |
| ホームページ維持費 | 140,000 | 140,000 | 0 | プロバイダー契約料、メールウイルスチェック料、謝礼その他 |
| 事務費 | 25,000 | 25,000 | 0 | 消耗品、その他 |
| 奨学金 | 150,000 | 0 | 150,000 | 第33回役員会(H.18年6月10日)にて承認 |
| 寄付金費 | 100,000 | 100,000 | 0 | 日中学術交流奨励会 |
| 慶弔費 | 50,000 | 50,000 | 0 | 他同窓会への祝い金、その他香典料 |
| 積立金 | 650,000 | 1,000,000 | △350,000 | 特別会計へ繰入 |
| 総会費 | 0 | 0 | 0 | |
| 予備費 | 132,981 | 279,117 | △146,136 | 懇親会補助、その他 |
| 合 計 | 2,867,981 | 3,214,117 | △346,136 | |

<特別会計>

| 科 目 | 18年度財産 | 19年度財産 | 比較増減 | 摘 要 |
|----------|-----------|-----------|---------|----------------------|
| 中期国債ファンド | 1,411,777 | 1,411,777 | 0 | |
| 定額預金 | 3,309,000 | 3,309,000 | 0 | H.12~H.16年度一般会計より繰入 |
| 定額預金 | 671,000 | 671,000 | 0 | H.13年度、H.14年度賛助金より繰入 |
| 定額預金 | 1,000,000 | 1,000,000 | 0 | H.18年度一般会計より繰入 |
| 定額預金 | 0 | 650,000 | 650,000 | H.19年度一般会計より繰入 |
| 合 計 | 6,391,777 | 7,041,777 | 650,000 | |

研究室紹介

【中国語学・中国文学コース】

平成19年度より、人文学部は講座の再編を行い、言語文化学科は、国際コミュニケーション講座・比較言語文化講座・言語情報学講座の3講座編成から、アジア言語学講座と欧米言語学講座の2講座編成に変わりました。それに伴い、教育面の体制であるコース制にも若干の組み替えが行われ、旧「中国語文化論コース」も「中国語学・中国文学コース」と名称が改まり、所属教員の編成は変化を被ることなく移行することができましたが、教員の所属講座は、18年度までは、国際コミュニケーション講座と比較言語学講座にまたがっていました（及び東アジア研究科専任教員を含む）が、19年度からは、全員がアジア言語学講座の所属となりました（及び東アジア研究科専任教員を含む）。

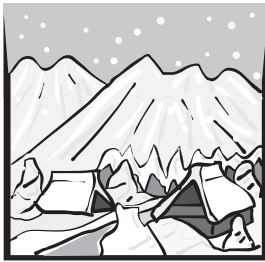
平成14年度（平成15年3月）をもって、国際コミュニケーション講座所属の松尾善弘教授が定年退官され、その後任として、更科慎一講師（中国語学）が平成15年10月1日づけで新規に着任されたことを、ご報告いたしたいと思えます。松尾教授は、鹿児島大学から転任され、初級・中級の中国語はもとより、学部から大学院にわたる幅広い教育に、驚嘆すべき熱意をもってあたられ、かたわら、中国古典、漢詩の韻律や読解法、漢字の構造、漢文教育などご専門分野に関する論文・記事を精力的に著述されました。

また、この数年間のうちに、かつて山大中文で教鞭をおとりになった著名な先生が2名の訃報に接したことも、関係者に衝撃をあたえた事件として、ご報告しなければなりません。まず、平成15年6月1日、松尾教授の先任であられた入谷仙介先生（島根大学名誉教授 中国文学）が、山口市内の病院で病逝されました（享年69歳）。また3年後の平成18年7月5日には、本学の名誉教授で、後に奈良大学学長をつとめられた上村幸次先生（中国文学）が、奈良市の病院で逝去されました（享年99歳）。つつしんで、両先生のご冥福をお祈りし、あらためて、その有形無形の学恩に対し、衷心からの感謝の念を表します。

本コースでは、古典語と現代語の両方に通じ、通時的な文学研究を志すことな
くしては、真の中国理解はありえないとい
う一貫した姿勢で、学生の教育に臨ん
できました。近年の全国的な初習外国語
離れ（^①）のあおりを受けて、過去の一時
のように、多くの学生が集中するという
現象は望み得なくなりましたが、少数な
がら、堅実かつ主体性を持った学生諸君
にめぐまれ、毎年、意欲的な卒業論文・
修士論文を産み出しています。研究テ
ーマを学生に強制することなく、学生みず
からが興味を持った対象にアプローチす
るのを、教員・研究室が支援するのが、
本コースの特色です。したがって、卒論
のテーマも、学生の個性を反映して毎年
多岐にわたっています。また、昨年前後
より、社会の景況の回復を受けて、卒業
生諸君の就職活動も順調に運ぶようにな
り、教員一同、やや胸をなで下ろしてい
るところです。狭き門であった教員・公
務員への就職も復活し、民間の就職先にも
よく知られた企業の名前が見えるよう
になってきました。

最後に、本コース所属教員の最近の研究活動について、簡単にご報告いたします。まず、阿部泰記教授（中国文学）は、「中国古代文学思想からみた物語文学の研究」を研究テーマとしています。「人間の言語表現を通じて倫理を追究する」「人を理解するにはその心の表出である詩歌を聴かなければならない」という中国の古代文学思想は、現代まで一貫して継承されてきているという認識のもとに、歴代の物語文学を、『詩経』に始まる中国の詩歌の伝統を踏まえた観点から観察していこうとするものです。根ヶ山徹教授（中国文学）は、従来から専門とする近世中国の戯曲演劇史に加え、室

町期の禅林における黄山谷詩の注釈を研究対象とし、山口市内の洞春寺が珍藏する『山谷詩抄』につき、『嘯岳鼎虎禅師自筆本山山谷詩抄―長州毛利洞春寺蔵』として影印出版しました。更科慎一講師(中国語学)は、着任以前より一貫して手がけている明代の中国語―外国語対訳資料『華夷訳語』の音訳漢字の研究を継続するかたわら、中国の青海省・甘肅省・広西チワン族自治区などにおける言語調査を精力的に行い、数種の調査報告を論文として公表しました。富平美波(中国語学―筆者)は、引き続き宋代・元代・明代などの中国の学者の著作を眺みつつ、その当時の音韻学のあり方を明らかにしようとしております。ここ数年は、明代の儒者郝敬の『読書通』、『毛詩原解』(その音注)などを観察対象としています。



就職支援について

昨今の様々な事情から、学生に対する就職支援の重要度が増しております。その原因の一つは、かつてのような就職氷河期を脱したとは言え、採用する側が厳選するようになったため、就職活動の困難さは変わらず、ある意味では以前より厳しくなっている、ということが考えられます。しかし、それよりも大きな問題は、むしろ学生自身のほうにあるようです。すなわち、就職活動が実質的にスタートする三年生後期の時点では、社会人として生きていく自覚がなかなか伴わず、どんな仕事をすればよいのか見当がつかない、つけたくない、という問題があるようです。なかには、四年生になつて順調に内定が確保できても、そのまま就職することへのためらいを示す例すらあります。一言で言えば、大人になるためには、もう少し時間が必要なのかも知りません。

しかし、大学を卒業すれば就職、という社会の仕組みは厳然として存在しており、学生も、また彼等を送り出す教員

も、それに合わせた対処をしなければなりません。これが就職支援の重要度・必要度が増している理由であると考えられます。

そのため人文学部では、就職相談室を常設し、就職指導を専門に担当する職員が、種々の情報を提供し、懇切な指導を行っております。相談室には、人文の学生を対象にした求人票が掲示され、関連図書への借り出しもできるようになっています。無論、情報検索パソコンの利用も可能です。また教員が構成する就職支援委員会があり、委員長と副委員長のほか、各コース選出の支援委員で構成されており、学年別オリエンテーションや、キャリアガイダンス、就職活動セミナー、就職活動体験報告会、コミュニケーション能力養成講座などを実施しております。このほか、全学の学生支援センター就職支援部の先生や職員の方々には、あらゆる面で支援していただいております。さらに山口県若者就職支援センターの専門カウンセラーの方や山口大学

生協の職員の方にも、必要に応じて相談や指導をお願いしています。

また、将来的には人文を卒業された皆様方において、働くことの意義や職場での経験などを後輩の学生に直接、披露・紹介していただく機会を設けることを考えております。この点は、昨年の『鴻文』26号でお願いした所ですが、複数の方から有り難いご返事を戴いております。今後の就職戦線の動向、学生の志望職種や意識・意欲などを種々検討したうえで、あるいは不躱なお願いをするやも知れませんが、その折には、何卒、宜敷お願い申し上げます。

しかし教員側の本音を申し上げることをお許しいただけるならば、真の意味での就職支援は、日々の教育の現場で行われていなければなりません。人文学部における学問の本質が、人間とは何か、社会とは何か、という最も根源的な問いを追求することであることは言うまでもありません。しかも、極めて重要なことに、そうした問いの追求に当たり、それを具体化し、いかにして解決するのかということに関しては、一切が学ぶ者自身の力で考え実行することにかかっています。それ故、常に自分自身に問いかけ、

自分自身を鍛えるという作業、つまり自らとの絶えざる対話が求められます。

「ひるがえって考えますと、これこそまさに就職活動にあたり、最初になすべきとされ、かつまた最も大切な作業とされる「自己分析」にほかなりません。

自己分析とは、要するに、決して長くはないこの人生において、一体自分は何を成し遂げたいのか。この大きな問題に一定の答えを出すこと。少なくとも就職活動開始時点での方向性を決めることです。冒頭で申しましたが、これが学生諸君にとつて、かなり難しくなっておりますが、その作業は実は日々の学生生活や授業の中で行っているはずのことなのです。したがって、昨今の就職に関する状況は、当然ながら、教員の側の教育・研究面におけるより一層の努力を求めていることにもなるわけです。改めて背筋を延ばして、擲筆させていただきます。

就職支援委員会



平成十八年度 人文学部卒業生・大学院修了生進路状況

人文社会学科

建設業

セキスイハイム九州、積水ハウス(株)

製造業

(株)ジーベック、中央出版(株)、(株)みなと山口合同新聞社、(株)中山製鋼所、難波プレス工業(株)、浜本工業、(株)ジュンテンドウ

運輸・通信業

郵船航空サービス(株)、西日本旅客鉄道(株)、東海旅客鉄道(株)、(株)ベガシステム、広島ホームテレビ、テクノ・カルチャーシステム、(株)インプレス

卸売・小売業

イオン九州(株)、不二貿易(株)、橋本商会、ソフトバンクモバイル、(株)ハローネット、トヨタカローラ山口(株)、(株)ハニーズ、コスモス薬品、(株)虎の穴、(株)ニトリ、アドベンチャーインターナショナル、(株)マルシェ、三洋堂書店(株)

金融・保険業

日の出証券(株)、大分銀行、萩信用金庫、紀陽銀行、山陰合同銀行、西京銀行、西日本シティ銀行、広島県農業共済組合連合会、島根銀行、共栄火災海上保険(株)、みずほファイナンシャル

ルグループ サービス業

萩本陣(株)、スカイラークグループ、自営業、周東総合病院、医療法人社団高邦会高木病院、(株)進学会、ITTO個別指導学院、宇部進学塾、徳進塾、JA遠賀、(株)フェアトン、ハウステンボス(株)、(有)新日邦、大和工商リース、名鉄観光サービス(株)、(株)白十字、周南法律事務所、リサーチセンター、総合警備保障(株)、(株)ラウンドワン、(株)JTBC中国四国、近畿日本ツーリスト(株)、アクセス

教員

島根県、広島県、北九州

公務員

防衛庁、郵政公社、航空自衛隊、裁判所、広島県庁、静岡市役所、山口県庁、大分県立図書館、江田島市役所

進学

京都伝統工芸大学大学院、京都大学大学院、中央大学大学院、専門学校

言語文化学科

製造業

あさひ製菓(株)、(株)アンデルセン、中央出版(株)、大村印刷(株)、日立

製作所、東陶機器(株)、丸住製紙(株)

運輸業

大韓航空、(株)宮崎交通

情報通信業

山口情報処理サービスセンター

卸売・小売業

(株)再春館製薬所、(株)岩崎宏健堂、(株)フランドル、(株)三洋堂書店、(株)上昇、イオン九州(株)、(株)ハローネット、ナチュラル(株)ドラッグストアモリ

金融・保険業

萩信用金庫、三菱東京UFJ銀行、(株)三貴商事、山口銀行、(株)親和銀行、東洋証券(株)

サービス業

物語コーポレーション、(株)Attackコーポレーション、学校法人河合塾、欧州コーポレーション、学校法人北九州予備校、TLCグループ、(株)ディック学園、(株)寺田商店、(株)キャリアアブレイン、(株)デル、平安閣グループ、米子空港ビル(株)、ワタベウエディング、(株)ATB、(株)スギ薬局、JTB西日本、山口マツダ(株)、エルクホームズ、(株)ザイオン、JTB中国四国、(株)まんだらけ、(株)ANAEアサービス

福岡

教員

広島県教員、福岡県教員、長崎県教員、鳥取県教員、学校法人尾道学園、精華女子高等学校、私立萩光塩学院

公務員

日本郵政公社、山口大学、山口県警察、

入学年度別学生数

(平成19年12月1日現在)

| 学科・専攻 | | 性別 | H19 | H18 | H17 | H16 | H15 | H14 | H13 | 計 |
|--------|---------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人文学部 | 人文社会科学 | 男 | 28 | 37 | 50 | 40 | 9 | 1 | 4 | 169 |
| | | 女 | 70 | 66 | 55 | 61 | 4 | | | 256 |
| | | 計 | 98 | 103 | 105 | 101 | 13 | 1 | 4 | 425 |
| | 言語文化科学 | 男 | 11 | 22 | 17 | 15 | 6 | 1 | 1 | 73 |
| | | 女 | 86 | 76 | 74 | 75 | 3 | | 1 | 315 |
| | | 計 | 97 | 98 | 91 | 90 | 9 | 1 | 2 | 388 |
| | 合計 | 男 | 39 | 59 | 67 | 55 | 15 | 2 | 5 | 242 |
| | | 女 | 156 | 142 | 129 | 136 | 7 | | 1 | 571 |
| | | 計 | 195 | 201 | 196 | 191 | 22 | 2 | 6 | 813 |
| | 人文科学研究科 | 地域文化攻専 | 男 | 2 | 6 | | | | | |
| 女 | | | 4 | 5 | | 1 | | | | 10 |
| 計 | | | 6 | 11 | | 1 | | | | 18 |
| 言語文化攻専 | | 男 | 4 | 1 | | | | | | 5 |
| | | 女 | 5 | 2 | 1 | | | | | 8 |
| | | 計 | 9 | 3 | 1 | | | | | 13 |
| 合計 | | 男 | 6 | 7 | | | | | | 13 |
| | | 女 | 9 | 7 | 1 | 1 | | | | 18 |
| | | 計 | 15 | 14 | 1 | 1 | | | | 31 |

同封の「異動通知カード」で会報送付先をお知らせ下さい。

進学
山口大学大学院、専門学校
竹田小学校図書館司書、島根県、朝倉市、島原市役所、山口市市立図書館、島根県立美術館、廿日市市役所、福岡県警察

人文科学研究科

山口県庁、佐賀県教育委員会、日本郵政公社、三信産業(株)、(株)マサル、ウベマテリアルズ(株)、ユニバーサルホテル岡山、(株)日本セレモニールグループ、慶進高等学校

鴻文会 会員名簿利用規則

- 一、会員名簿の更新(新規入会・異動に伴う)と保管は事務局で行う。
- 二、会員名簿は会員に限り開示することを原則とする。
- 三、会員名簿は、会員相互の親睦、会の発展を目的とした利用に限り使用することができる。営利を目的とした利用は禁止する。
- 四、会員名簿の開示は、直接に事務局で求めるか、郵便またはファックスで申し込み、事務局は、申し込み者が会員であることを確認して会員名簿を送付する。これにかかる経費は利用者が負担する。
- 五、会員名簿の開示申請者名簿(利用者名簿)を作成し事務局で保管する。



編集後記

会報27号をお届けいたします。同窓会の会報というものの性格を考えると、本来は、卒業生の皆様に大学からの情報を提供するとともに、会員相互の情報交換の場であることが望ましいと思われませんが、現在会報の編集は学内委員が単独で担当しており、前者で精一杯で、編集の段階で広く卒業生に連絡を取り情報を収集するのは困難な状況です。前号の編集後記でもお願いしたとおり、会報の編集にご協力いただける方がいらつしやいましたら、連絡事務局までご一報ください。また、今後の会報のあり方についてもご意見などございましたらお寄せください。

同封の異動通知カードで会報送付先をお知らせくださるようお願いしておりますが、電子メールでも受け付けております。ご住所などに異動が生じた方は koubunkai@nifty.com まで一報ください。

最後になりましたが、会員の皆様のおますますのご発展をお祈り申し上げます。

(I)

